

APSH 上海サマースクール 2017 参加報告書

東北大学病院 腎高血圧内分泌科 三島英換

アジアパシフィック高血圧学会が主催するAPSH/ISH サマースクール 2017 in 上海(7/31-8/4)に日本高血圧学会からの旅費サポートをいただきて参加してきました。本会はアジア・パシフィックから各国の若手医師があつまり ISH の Faculty 達をモダレーターとして合宿形式で高血圧学について広く学ぶもので、前回の北京に続いて 2 回目の開催です。参加者は日本、中国、オーストラリア、インド、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、バングラディッシュから集まり、上海郊外の広大なゴルフ場に隣接したホテル内で計 5 日間缶詰め状態で行われました。内容は臨床高血圧を中心の内容で、Faculty からのレクチャーに加えて参加者々に与えられたお題および自分の現在の研究内容について口頭発表し、皆で議論・討論する形式でした。特に Intensive な血圧コントロールを良しとする SPRINT 研究の解釈についてはたびたび議論が交わされました。各国の健康保険や疫学事情に伴い高血圧の治療、啓蒙、課題についても異なり、とくに国民健康保険が潤沢でない国々の参加者はコスト意識が非常に高く、Entrest®(ARB+NEPI 合剤)やトルバプタンなど高価な薬剤についてはエビデンスと有効性を意識した上で真に適応のある患者のみに使用する姿勢を感じました。中国においては経済の急速な発展と近代化(食の欧米化含む)に伴い高血圧、糖尿病、肥満も急増しており日本以上に大きな社会問題となっており、また都市部と地方の医療レベルの解離などの問題も存在しており国家政策レベルを含めた高血圧対策をすすめているようです。

個人的な感想としましては、私以外の参加者はみな英語が達者(特に中国の参加者はみな英語がペラペラ)であり、海外のセミナーに参加するようなインテリ層で英語ができるのはもはや日本人だけではないかと思われます。日本人は携帯電話のガラケーながら内向的にガラパゴス化しやすい性質ですので、そういうしている間にアジア各国の国々の交流や影響が強くなり学会や研究における日本の影響力の低下には危機感も感じた次第であります。本会参加は高血圧の勉強以上に国際交流と多様性を肌で感じができる良い機会でした。今後も開催が予定されているようですので高血圧に関わる若手医師は是非とも次回のサマースクールへ積極的に参加することをおすすめいたします。

